

公式基準

UIAA 医療委員会 三浦 裕

VOL : 24

ジカウイルス感染の現在の発生について

予防のための推奨事項

流行地域を訪れる登山者へ

D.ヒルブラント 2016

V1-1

ページ : 1/4

UIAA MedCom Standard No.24 : ジカウイルス

内容

1 はじめに.....	2
2 疾患の背景.....	2
3 登山家および山岳旅行者との関係.....	2
4 現時点の助言.....	3
5 最新情報の確認.....	3

1 はじめに

ここ数週間メディアで、ジカウイルスの感染が、南米の一部の国で発生している小頭症などの先天性中枢神経欠損症の子供の増加に関連している可能性があることが報じられています。この小冊子に記載する内容は、UIAA MedCom で承認されたもので、英国の全国旅行健康ネットワークセンター (NaTHNaC)、NHS スコットランド、世界保健機関 (WHO)、パンアメリカンヘルス機関 (PAHO)、米国疾病管理センター (CDC) およびドイツのロバートコッホ研究所から発表されている内容を基に作成されています。

2 病気の背景

ジカウイルスは、1947 年にアフリカで最初に同定され、1952 年に人間への感染が初めて確認されました。 Dengue 熱やマラリアと同様に、蚊に刺されて伝染します。感染しても、その 5 人のうち約 1 人が、軽度のインフルエンザ症状に似た、結膜の充血を伴う病気 (結膜炎) 風邪症状を示すだけの軽い病気です。しかしジカウイルスに対する免疫力のない妊婦が初感染すると、胎児の脳の発達に非常に深刻な障害を引き起こす可能性があることが報じられています。ただし中枢神経系以外の臓器に問題を起こすかどうかはまだ不明です。女性が妊娠していることに気付く前、特に妊娠期間の初期の 3 分の 1 の期間に感染した場合に、小頭症を引き起こすリスクが非常に大きい。かなりまれではありますが、このウイルスに感染した男性も女性も、ギランバレー症候群を引き起こした症例も報告されています。

このネットアイシマカ媒介感染症はアフリカとアジアで発見されています。まだ南アメリカと中央アメリカでは、いくつかの限定された国だけで報告されています。しかし現時点でジ

カウウイルス感染症による先天性異常の症例報告がない地域でも、ネッタイシマカ媒介蚊が生息している近隣諸国で、この感染症に対する問題意識が高まり、ウイルス検出が実施されるようになると、この症例が急増する可能性は高いです。

3 登山家および山岳旅行者との関係

マラリア蚊のように、ヒトスジシマカは標高の高い寒冷な場所には生息できません。蚊が2500mを超えて生き残ることはほとんどありません。しかし登山家や山岳旅行者は目的の高い山に登るまでに、標高が低い場所を移動するので、その間に蚊に刺される危険性があります。感染した男性からパートナーの女性へ性行為で感染させたと思われる症例が2例報告されています。2症例とも、ジカウイルスが精液から検出されています。このため、流行地の旅行から戻った男性は、帰国後少なくとも1か月は父親として女性パートナーを妊娠させることを避けるべきです。感染していることがわかった男性は6ヶ月間コンドームを使用してパートナーの女性へウイルスが伝播することを予防することをお勧めします。

ページ：2/4

UIAA MedCom Standard No.24：ジカウイルス

不妊手術を受けた女性または、出産可能年齢を超えた中高年の女性は、当然ですが妊娠の観点からは先天性異常児を出産する危険はありません。

出産適齢期の女性は、異なる情報が、異なる情報源から出されている現状では、どのように対応したら良いか迷う可能性があります。この小冊子に記載されている内容は、現在も進められている最新の研究成果に基づいて慎重に作成されたものです。メディアで報道されているように先天性欠損症とジカウイルス感染との因果関係あると思えます。しかし、まだ完全には科学的に因果関係が証明された段階ではありません。現在は利用可能なワクチンはなく、近い将来開発される可能性もありません。

4 現時点の助言

軽度の風邪症状しか起こさないジカウイルス感染症に対する最善の対処法は、男性も、女性も、夫婦二人とも蚊に刺されないようにすることです。しかし、どんな旅行者もこれは難しいことであることを知っています。蚊に刺されることに敏感な人もいます。蚊に刺されることを気にしない人もいます。妊娠の可能性のある女性は、ジカウイルス流行地帯への旅行を避けることを勧告している組織もあります。どうしても流行地帯を旅行する必要がある場合は、次の予防策をお勧めします。

- 1) 確実な方法で避妊する。
- 2) 長袖のシャツと靴下で肌を覆う。

- 3) 30%～50%DEET 含有の殺虫剤を日中、夜明けおよび夕暮れに塗布する。
- 4) 夜間睡眠や昼寝でも、ペルメトリン（ピレスロイド系殺虫剤）含浸の蚊帳を張り、薄手の服で全身を覆う。
- 5) 夜間には蚊取り線香を焚き、殺虫剤を室内に散布する。
- 6) 蚊の侵入を防ぐために寝室をできるだけ涼しく保つ。

標高 2500m 以下ジカウイルス流行地に滞在する予定があれば、その国へ出発する少なくとも 2 ヶ月前から、さらに帰国後 3 ヶ月間は、確実な方法で避妊することをお勧めします。標高 2500m 以上の場所に滞在する場合には、the UIAA MedCom Recommendation No.14 at: http://www.theuiaa.org/medical_advice.html.を参照して下さい。

5 最新情報の確認

新しい問題であるジカウイルス感染症に関する最新情報は、以下の Web サイトで、更新されているので、出発前に確認することをお勧めします:

<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/zika/en>

<http://www.cdc.gov/zika>

http://www.rki.de/DE/Content/InfAZ/Z/Zikaviren/Zikaviren_node.html

UIAA MedCom の執筆者 (アルファベット順)

C. Angelini (Italy), B. Basnyat (Nepal), J. Bogg (Sweden), A.R. Chioconni (Argentina), N. Dikic (Serbia), W. Domej (Austria), P. Dobbelaar (Netherlands), E. Donegani (Italy), S. Ferrandis (Spain), U. Gieseler (Germany), U. Hefti (Switzerland), D. Hillebrandt (U.K.), J. Holmgren (Sweden), M. Horii (Japan), D. Jean (France), A. Koukoutsis (Greece), A. Kokrin (Russia), J. Kubalova (Czech Republic), T. Küpper (Germany), J. McCall (Canada), H. Meijer (Netherlands), J. Milledge (U.K.), A. Morrison (U.K.), H. Mosaedian (Iran), R. Naeije (Belgium), M. Nakashima (Japan), S. Omori (Japan), P. Peters (Luxembourg), I. Rotman (Czech Republic), V. Schoeffl (Germany), J. Shahbazi (Iran), J.C. Skaiaa (Norway), J. Venables (New Zealand), J. Windsor (U.K.)

その他の執筆者 / コメントを頂いた方 (アルファベット順): Burkhard Rieke, Andy Clark and Paul Richards.

日本語訳 三浦 裕